

1. 自転車通行空間社会実験結果

横須賀市土木部

1-1 実験目的

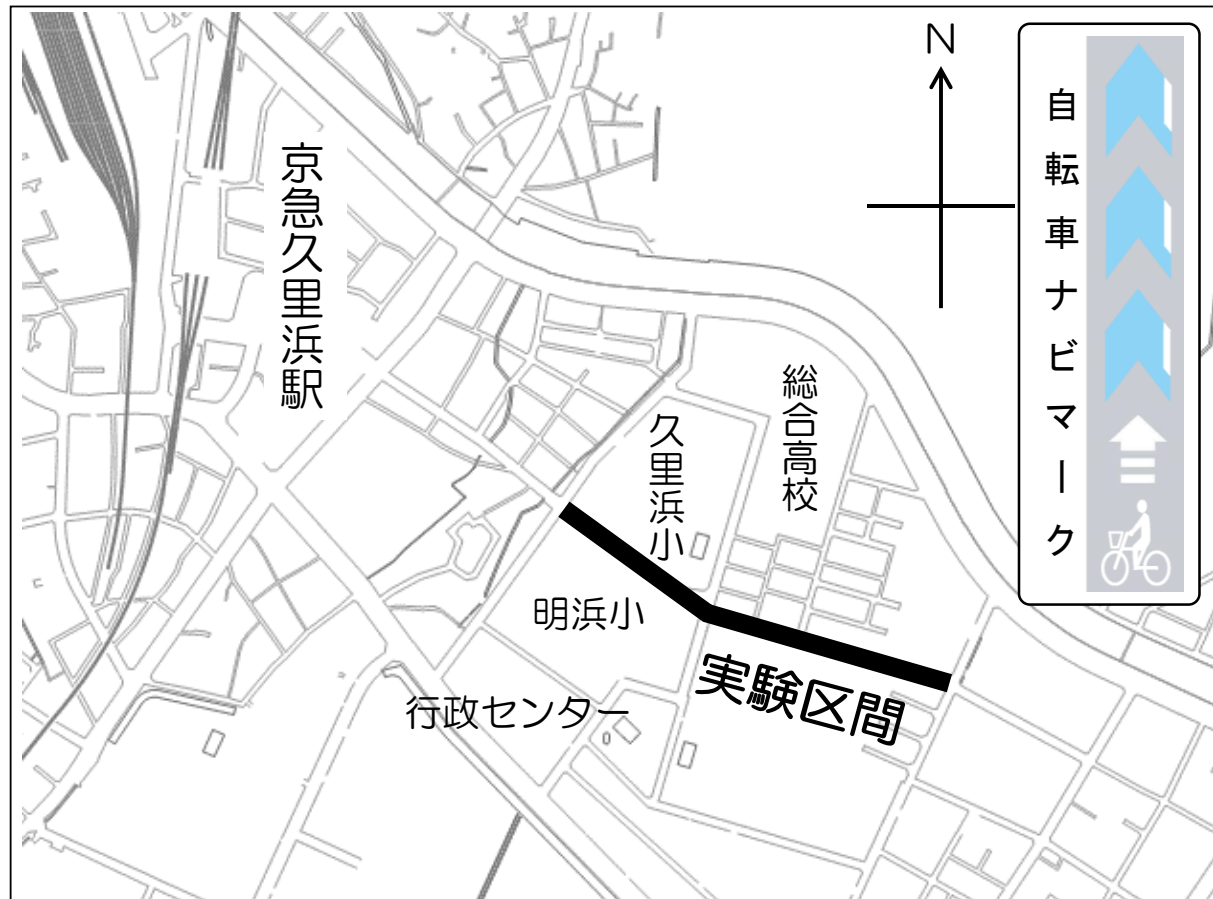
本社会実験は、久里浜6丁目地区における市道において、自転車通行空間の整備前後における自転車利用者及び歩行者の安全性・快適性の変化、当該整備への賛否や他道路への整備意向など、自転車通行空間整備に対する意向を把握し、その有効性についての検証を行った。

1-2 実験期間

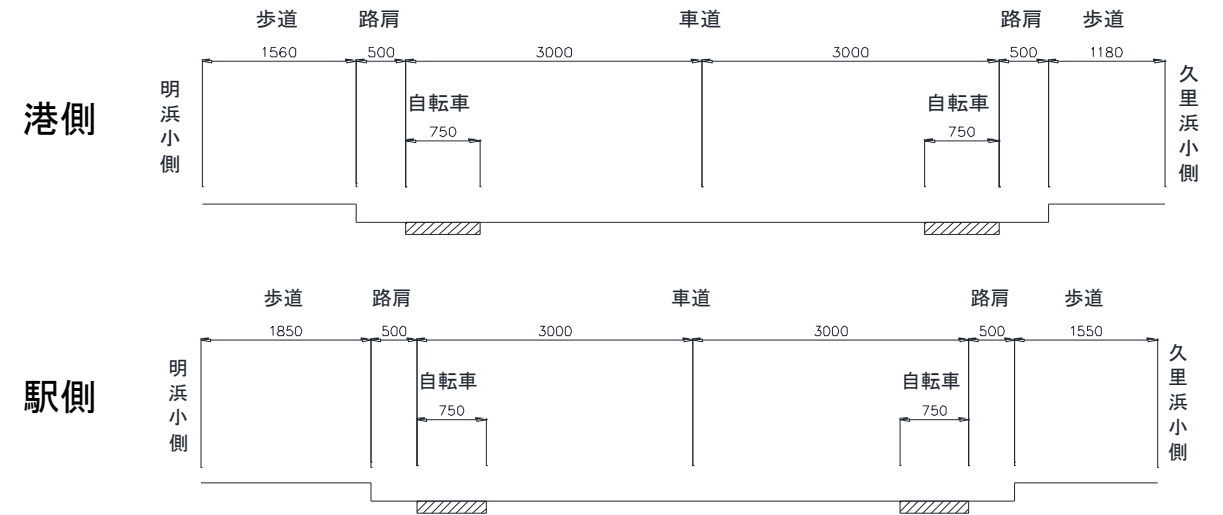
平成30年11月15日（木）から28日（水）の2週間

1-3 実験箇所

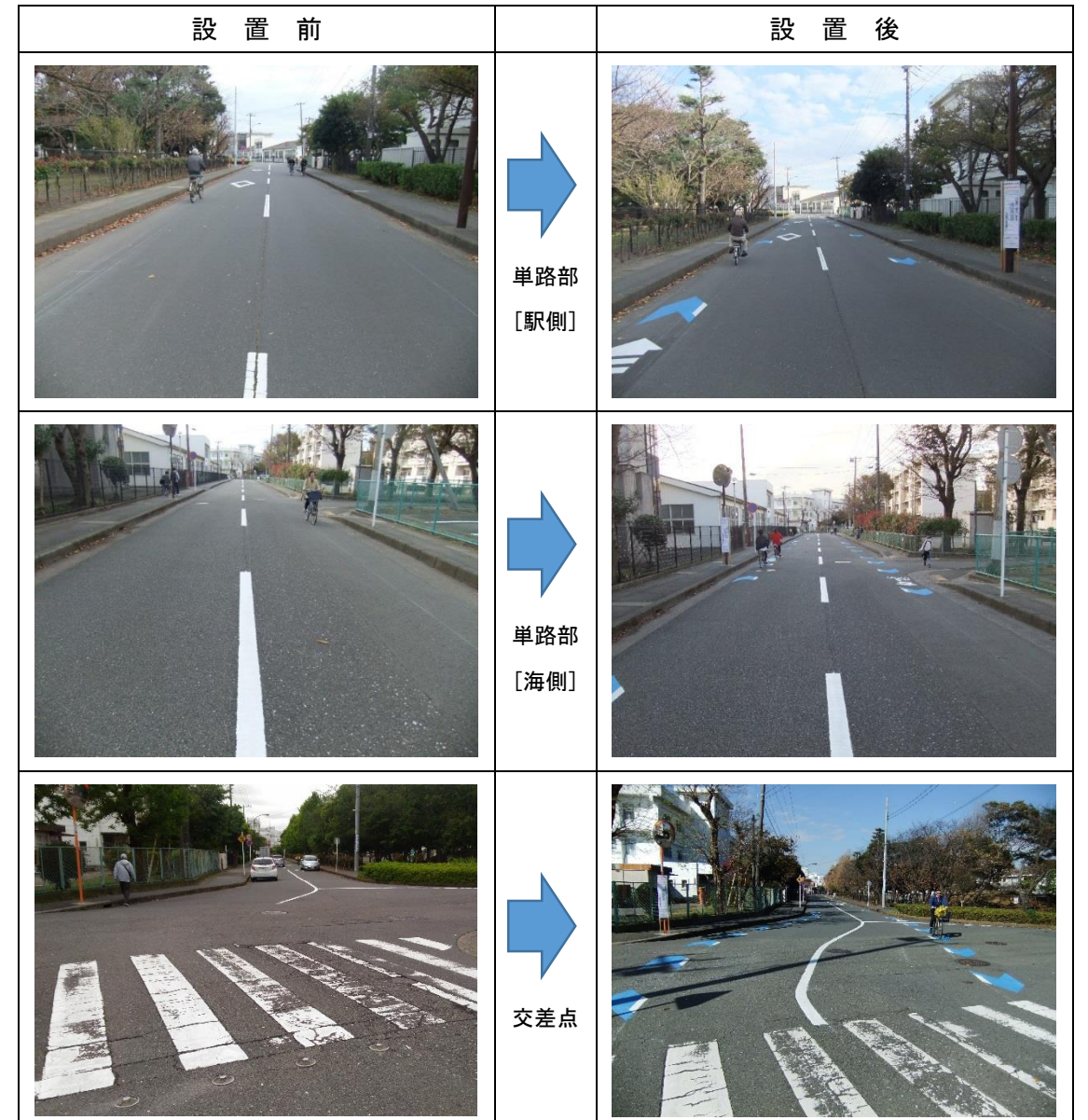
横須賀市久里浜6丁目地区の市道 L=430m
[市道4696号線及び市道4698号線]



1-4 横断面図



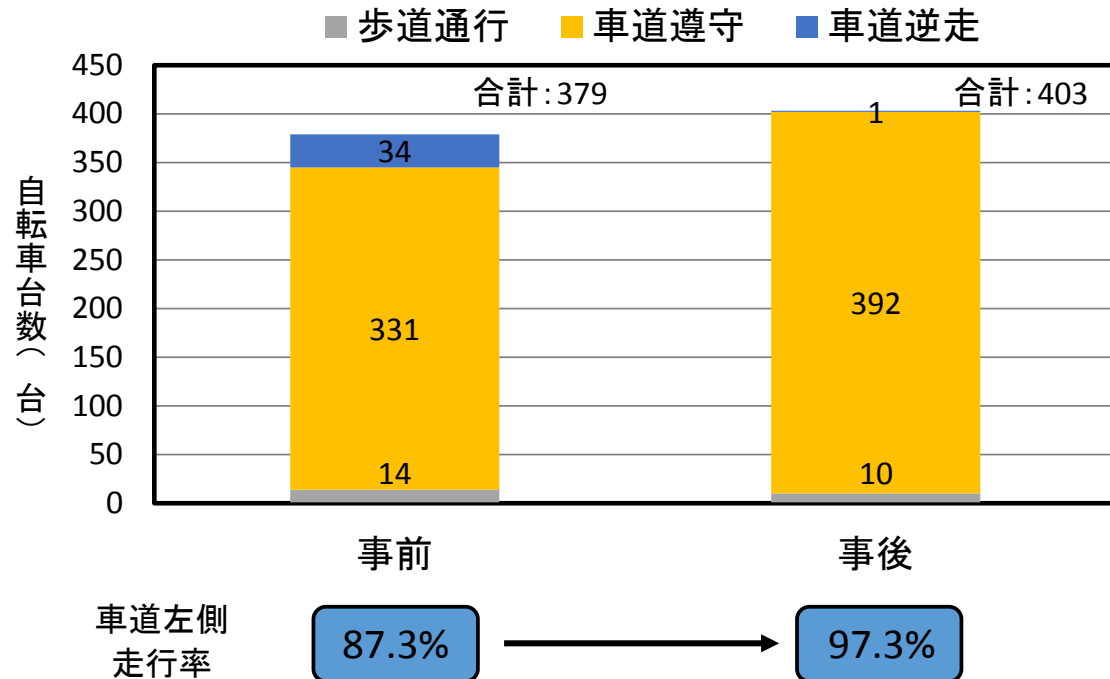
1-5 自転車ナビマークの設置状況



2. 社会実験の結果

2-1 自転車ナビマークによる自転車の誘導効果

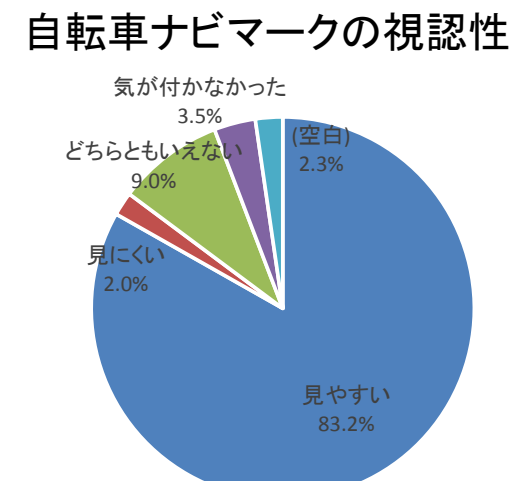
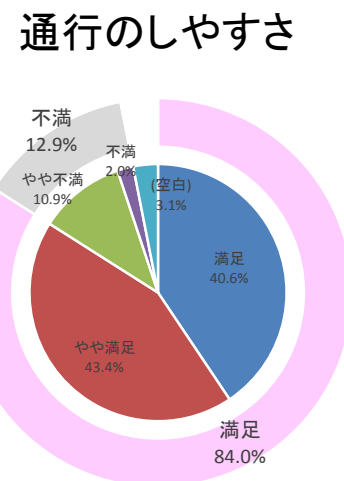
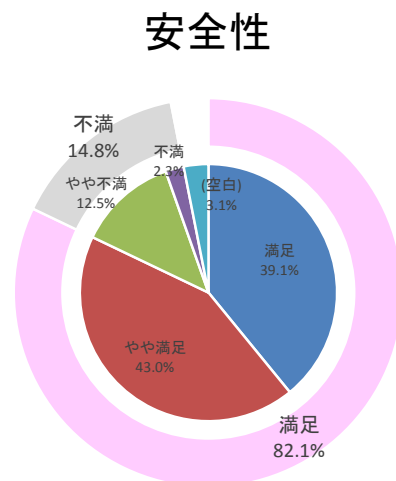
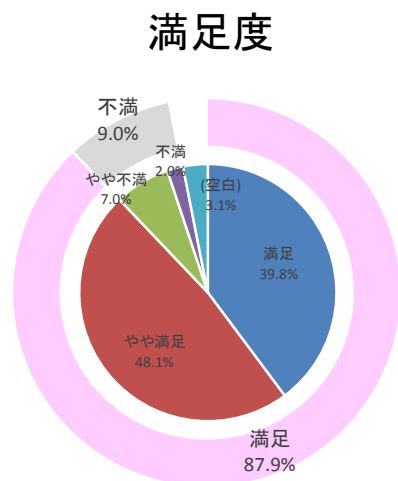
- ・自転車ナビマークの設置により、車道の左側走行率が増加した。
- ・車道の逆走については、大幅に改善した。



※数値は、7:00~9:00と15:00~17:00の合計値です。

2-2 自転車ナビマークの評価

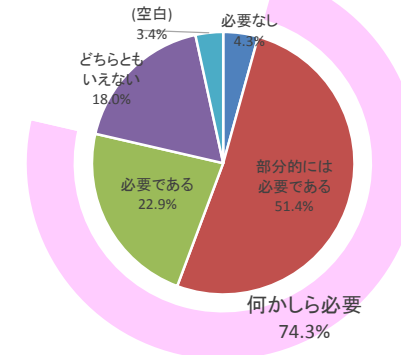
- ・アンケート結果によると、満足度、安全性、通行のしやすさ、視認性、どれをとっても8割以上の人々が満足している。



2-3 自転車ナビマークの市内への展開

- ・アンケート結果によると、7割以上の人々が自転車ナビマークを市内で設置することは何かしら必要だと考えている。

自転車ナビマークを市内全域で設置することについて



2-4 今後の課題

- ・自転車走行空間は、連続性を確保することが必要である。
- ・連続性を確保するには、自動車交通量が多い路線や、路上駐車が多い路線、一方通行の道や狭小の道など、様々なケースが考えられる。
- ・これらの想定しうるケースについても、社会実験等の検討は必要である。
- ・また、ハード整備以外にも、自転車ルールの周知・徹底も必要だと、アンケート調査から分かった。
- ・自動車運転手の理解も不十分であり、路上駐車について何らかの対策も必要である。